

# Trial & Error

No.238

May - June 2004

〈サブ特集〉

JVC STAFF 2004

〈プロジェクトの現場から〉

南アフリカ／パレスチナ

特集

## 今、イラクで 起きていること

〈イラク〉日常はどこにでもある (写真：高島 哲夫)



JVC

Japan International Volunteer Center

■市街には品物があふれている。



特集

# 今、イラクで起きていること

イラクに激震が走っている。“不安と不便”の日常に、“危険と闘い”が加わってきた。壊し、それをタネにもうける戦争のビジネス化も目立つ。そこには、日本の「兵士」もいる。イラクの現状とNGOの役割について考えてみた。(編集部)

## 不安と不便が続くバグダッド

イラク現地調整員 原文次郎

### ■進まない復旧

この原稿を書いている現在、三月二十日を迎えようとしています。一年前のこの日にイラク戦争は開始されました。まさにその日、米国時間十九日の夜を、私はアメリカで迎えていました。そして連日の「戦果」をTV報道で見せられていたのです。

TVを通して見るバグダッドは、予想外と言ってはイラク人には失礼ながら近代的な都市でした。そして、戦後の七月に初めて現地を訪れて、戦争の被害よりも戦後の略奪の際の放火跡が目立つものの、破壊されたそれらの部分を除けば都市としての外観は比較的保たれているのを見て、意外に復旧は早いのではないかという印象を持ちました。

しかし、戦争から一年、私が最初に訪れてから八カ月後のバグダッドはどこまで復旧したのでしょうか。驚くべきことに、都市の機能はほとんど回復していません。

通りを走る車の数は増え、日本では廃車であってもおかしくない車が多かったのが、今は周辺諸国から新しい型の中古車の輸入が増え、だいぶましになって来ています。しかし

産油国だというのに、その車を走らせるためのガソリンは相変わらず入手が困難で、戦前にはほとんどなかった市内の渋滞も、今ではすっかりバグダッド名物になっています。

電気が来ないので信号が点灯しておらず、たまたまついていたらとしても誰も信号を守ろうとはしません。警察官による交通整理の姿も昨夏以降は見られるようになりましたが、占領軍による交通規制が街中の交通を遮断しているの、渋滞は激しくなるばかりです。

人々の生活はどうでしょう？ 店頭には多くの品物があふれています。失業率が七〇％とも言われるほど高いので、そうした品物を買える人々はわずかです。しかも治安が不安定なので、夜間の客足が鈍ることもあり、夜には早々に営業を止めて店を閉めてしまいます。

### ■高まる不安

戦前からあった配給制度は、昨年の十一月以降に国連の管理から占領軍当局の管理に移されました。これが何とか機能しているので食糧は配給に頼ることができず、それもあくまでも最小限度のことです。電

気も、いまだに一般家庭では電気がつけられる時間よりも停電の時間のほうが長い始末です。

JVCが支援しているガン・白血病の小児病棟を持つ病院でも、昨夏以降も、薬や治療用の機材が足りないという状況が続いており、なかなか目立った改善がありません。

戦争後一年が経つのに都市機能が改善されていないのは、占領軍統治の失敗だと言われています。今年六月末に予想されているイラク人による暫定政府への大幅な権限委譲が行なわれるまでは、更なる改善は見込まれない状況です。

イラク警察の配置が進むにつれて、軽犯罪や強盗などの一般犯罪は次第に減ってきたと言われる一方で、占領軍やそれに味方をすると思われる人々、外国人、そして警察をも標的とした大規模な狙撃事件、爆破事件は後を絶ちません。最近では宗教対立や民族対立を煽り、イラク社会の不安定化を進めようとする意図して、一般市民の犠牲をも厭わない攻撃が行なわれる例も出てきています。このような情勢の中でも安全を確保しつつ、着実に必要とされる支援ができるように活動を続けています。

## パレスチナ化するイラク

イラク事業担当 佐藤 真紀

四月に入ってイラクが始まったイスラム教シーア派と米英軍らとの衝突は、来るべきものが来たという印象を受けます。

民族・宗教が複雑にからみあったイラクの人々をまとめるキーワードは「アメリカが悪い」です。アメリカは今回の衝突の発端となった新聞の発禁処分や不法拘留など、イラクの人々の占領に対する不満や主張を力で抑えています。

アメリカの「大義なき戦争」のツケはこうした形で現実化し、イラク情勢は抜き差しならない泥沼化へと向かっています。弱い人々の声を聞かず、力で抑えつけようとしても問題は解決しません。人々の反発は逆に強まります。

イラクが「パレスチナ化」しているのです。それは中東全体、ひいては世界のパレスチナ化へとつながります。ゴミ箱が撤去され、警官の姿がやけに目立つ今の東京に暮らしていると、イスラエルにいるのかと錯覚します。

(談)

## NGOが見たイラク 「戦争と復興」

JVC代表 熊岡 路矢

### ■イラクも世界もより危険に

二月、イラク駐在の原に合流し、医薬品支援などの活動の一部を担い、治安をふくめ現地情勢を体感し分析する機会を得た。バグダッド市内は、家電・衣服など商品もあふれ、イスラム新年前の結婚式などの賑わいなど、イラク人による社会・経済再建の一部を感じた。人々は、治安の悪さに怯えながらも、仕事を探し、通勤や通学、買い物をしていくわけにはいかない。事故や事件で死傷する可能性も、「確率の問題」と割り切って生きていかざるを得ない。

イラク国内では、三月にカルバラとバグダッドで爆破事件があり、二百名近くが死亡。三月十一日、スベインのマドリッドでは、列車の同時爆破により二百名以上が死亡する大事件が起こった。「イラク戦争」以来、イラクも世界も危険になってきている。

昨年三月二十日、「戦争ではなく外交と査察で問題の解決を」という世界の声を無視して、米英軍は一方的軍事攻撃を開始した。軍事攻撃の表向きの理由は、①イラクが所有する「大量破壊兵器」の廃棄、②イラ

ク政権と「九・一一事件」首謀者との「連携」の断ち切り(「反テロ」)、③イラクの「民主化」の三つ。現在では、米英国内の議論でもこれらの「理由」には根拠がなく、情報が大きく誇張・歪曲されていたことも明らかになっている。

昨年三月の時点で、周辺国、米、国、および世界にとってイラクは脅威であったわけではない。湾岸戦争とその後①経済制裁、②米英軍の「限定的」空爆、③軍事査察および兵器廃棄、によってイラクはすでに弱体化していた。結局は、米国の「国益」ですらない、政権幹部が関係する石油・軍事企業の「私益」(私企業益)のために、多くの人々を殺傷したことになるのではないか。不条理すぎて、イラクの人々や病室の子どもたちへの言葉を失う。また、その後も治安とライフラインの確保すら行なえていない状況から、サダム嫌いの人々の人心も占領軍からはすでに離れている。

### ■イラク人中心の復興を

NCC<sup>※注①</sup>は、NGO間の活動調整を行ない、また行政などとの交渉も行なうNGO協議体である。中

心は過去六〜七年間イラク国内で活動してきた仏独など欧州のNGOが多い。JVCもNCCの主要メンバーも、現在のイラクは①外国占領軍を漸減<sup>せんげん</sup>していく日程を明確にし、イラク政府・行政再建に向けて力を注ぐこと、②人道復興支援を、占領軍から切り離し、より中立的な「国連—国際NGO—行政」に委ねる、という時期に来ていると認識している。軍隊の専門性は、人道復興支援ではない。「敵」を倒すことである。また、軍隊が人道復興支援に携わることで、本来これを担うはずの国連・国際NGO・地域行政の人間が危険な立場に陥る、というのが国際的な論調である。現実に国連ビルや赤十字国際委員会ビルを対象とした爆破事件が起きている。

日本は、現地調査も不十分のままに、イラクへの自衛隊派遣を米軍・占領軍への協力として行なった。現地の日本人だけでなく、日本全体を危険にさらす可能性のある選択である。迷路のような状態であるが、軍隊と「復興ビジネス」から、イラク人中心の復興を取り戻すことが、NGOの役割であろう。





■軍用車両とすれ違うことも少なくない。

# JVCはイラクで何をすべきか

アフリカ日本協議会代表／JVC理事 林達雄

## ■深まる生活破壊

二月の末から一週間ほどバクダッドを訪れた。米軍によるイラク侵攻からちょうど一年が経過しようとする時期だが、町はゴミと瓦礫だらけ、ホテルの部屋でも、朝起きて窓を開けると化学物質の異臭が鼻につく。病院の中庭も汚水が溜まったまま放置されているといった状況だ。

米国や日本がイラク復興を語るわけには、現実の復興は進んでいないように見える。しかし、家の中は清潔だ。病院でも、医師たちが乏しい医薬品をやりくりしながら最善の医療を施そうとしていた。湾岸戦争後、劣化ウラン弾の影響と見られる小児の白血病が増えているが、医薬品の供給さえ整えば、病気を治しうる人材がイラクにはいるのである。

イラクの一般家庭にとつての当座の問題上位三つは、仕事がないこと、電気が数時間おきにしか来ないこと、一般犯罪が多いこと、である。石油採掘の復興は進んでいるはずなのに、自分たちの生活に反映されていない。お金が流れるべき所に流れていない。人材が活用されていない。政治が機能していない状態で、

イラクの将来像も見えてこない。

## ■横行する戦争ビジネス

ブッシュ政権は、テロが原因で世界が安定しない、と言う。現地での実感は異なる。私が滞在した一週間の間にも、イスラム教の聖地カルバラとバクダッドで爆破事件が起きた。町は静まり返り、人や車の往来は途絶えた。しかし、バクダッド市民の受けとめ方は冷静であった。

その一方、米兵は身構えていた。検問所で出会う若い米兵は明らかに脅えていた。脅えた若者はいつ機関銃を乱射するかわからない。現実に米兵による誤射と不法拘留が問題になっている。市民にとっては、「テロ」よりも「テロ対策」の方が危険なのだ。「テロ」という見かけのリスクに踊らされ、生き延びるための安全性が脅かされる、そんな世界の縮図をイラクに見ることが出来る。

一方で、いまこそ儲けるチャンスだと、精力的に動きまわっている人々がいる。ハイウェイでは物資を満載したコンポイが先を争い、空港の待合室には、米国建設省の役人を中心に世界各国のビジネスマンが群れ、JVCが医薬品を届けている病

院にも、米国の厚生官僚を中心に三十名ほどの関係者がやってきた。米政府は、「復興」と称して、イラクの政府事業を企業に切り売りしようとする。戦争で壊れておいて、作り直す「戦争ビジネス」である。

戦争で壊されたものは、建物などのハードばかりではない。イラクの政府事業というソフトも壊され、作り直されようとしている。そこに民間化というやり方で企業が入り込んでいる。すでに紙幣造りや憲法の草案作成が米国系の企業によって行なわれていると聞く。民間化路線に対する私たちの心配は、誰にとつても必要な医療や教育など基本的サービスが、お金の無い人には届かなくなることである。

日本はイラクに五十億ドルの援助の約束をした。このお金はどのように使われるのだろうか。将来計画の見えない今のイラクで、お金を有効に使うことは難しい。国境なき医師団の現地代表は、「イラクは人道援助が必要な国ではない」と語った。小泉首相は人道支援の名の下に自衛隊を派遣したが、イラクにとっては必要のない政治的決定である。

## ■等身大のイラクを伝える

これまでJVCは、イラクの生活者たちとの親交を深めてきた。白血病治療支援を通して病院の医師たちとの信頼関係をつくってきた。これ

らの人々の実感を通して、等身大のイラクの諸問題を浮き彫りにし、平明な言葉で日本に伝え、日本の政治に判断材料を提供することが、今後のJVCの役割となる。

九・一一事件以降、ブッシュ大統領や小泉首相による政治は、市民の生活とは遊離し、NGOや途上国の声を聞くこともしない。テロを理由にした政治は見えにくく、お金は貧困対策や感染症対策のような地球規模の喫緊の課題に投じられない。ブッシュ大統領の登場はアジア各地にミニ・ブッシュの台頭を生み、人権侵害が公然と行なわれるようになった。こうした世界規模の政治の機能不全を解く鍵が、イラクにあると感じる。イラクの政治の霧が晴れ、日本と米国の霧が晴れることを心から望みたい。

最後に、イラクという現地でも、人々を「いかす」努力は継続したい。それには、白血病治療の充実をはかることである。これは、今苦しんでいる子どもたちを生かすことにも、今回のイラク戦争後に増加するであろう、患者たちを生かすことにもなる。また、イラクの医療に関わる人材を「活かす」ことにもつながる。日本には広島、長崎以来の被爆者医療の経験がある。小児白血病の治療技術がある。日本の経験や技術を「活かす」ことでもある。

## Cambodia

### キム・シモン (農村開発担当)

- ① 第一子を出産したこと。
- ② 資金がまだ足りないが、子どももだんだん大きくなるので、新しい家を建てたい。
- ③ テレビを見たり、ラジオでニュースを聞いたり、息子の世話をしたりするのが好き。

### 米倉 雪子 (現地代表)

- ① 他のNGOと協力し、互いの経験から学び、調査提言活動で個々でやるより良い成果があげられたこと。

- ② 日本の環境・社会問題にとりくむ市民活動とカンボジアをつなぐこと。
- ③ 瞑想、自然保護、安全で体に良い食べ物。

### ウン・コック・エン (清掃/会計担当補佐)

- ① 母が病気になる、看病で大変でした。
- ② 今年からJVCが会計補佐の仕事と学校に行く機会をくれた。十二年間清掃係として勤務してきた、このようなことは夢にも思っていなかった。
- ③ 料理が大好き。食材の良し悪しがわかるので、友達に頼まれてよく一緒に買い物に行く。

### ケツ・チャントユー (資料センター図書館補佐)

- ① 〇三年はいつも通りの年でした。
- ② 七月頃に第二子の出産をひかえています。次は女の子がほしいです。
- ③ 家事をするのが好きです。

### サム・ネアリー (農村開発担当)

- ① JVCで働き始めたこと。仕事はとても楽しい。
- ② 家族でシエムリアップに旅行に行きたい。
- ③ 家族や自分のために服をつくること。

### ピン・パン (農村開発担当運転手)

- ① 家族でシエムリアップに旅行に行けたことがとてもうれしかった。

# JVC STAFF 2004

設立から24年目を迎えた2004年度のJVC。ただ今9カ国で活動中です。活動地やプロジェクトの多彩さに負けない、個性的なスタッフの面々を紹介します。

- ① 03年度でうれしかったこと
- ② 04年度にやってみたいこと
- ③ 今、はまっていること

### チョアン・ソチャット (農村開発担当)

- ① 母親が、アメリカに住む姉に会いに行けたこと。
- ② 今の家は古く小さいので、家を改築したい。資金が足りないので、まだ計画段階。
- ③ 家にいるときは、料理や家事をし、娘との時間を大切にしています。

### 山崎 勝 (農村開発担当)

- ① カンボジアの農民の「知恵」と「気合い」に出会えたこと。
- ② 事務所の前番さんたちを巻き込んでの毎日の筋トレ (スタッフの健康増進と事務所のセキュリティ向上をめざして)。
- ③ 近所のおばちゃんとの会話 (はまっている)

というよりはめらわれている?。

### ポク・ヴィリヤック (農村開発担当)

- ① 以前はJVCが活動の決まりをつくっていたが、今は農民たちが責任を持って自分たちにあった決まりをつくるようになった。
- ② 去年は父親が病死し、あまり良い年ではなかったが、今年が良い年になると思う。

### パウ・リット (総務担当付運転手)

- ① JVCのスタッフ旅行で、家族全員を連れてシアヌークビルに行ったこと。
- ② 今年もJVCのスタッフ旅行に家族を連れて行きたい (今年はコックン)。
- ③ 毎朝家の掃除をし、子どもを学校に送っています。筋トレも毎朝欠かしません。



左から: シモン、米倉、エン、チャントユー、ネアリー、パン、ソチャット (チョアン)、山崎、ヴィリヤック、リット、チュン、ソチャット (ソ)、ナリン、ソ  
上枠: ヒエン、中枠: パウ、下枠: 後川

### ヘム・チュン (会計担当/総務担当)

- ① 去年は母親が亡くなり、良い年ではなかった。JVC勤務前で収入がなく、葬式のためのお金を捻出するのが大変だった。
- ② 今年からJVCで勤務できることが決まり、とてもうれしい。

③ オリピックスタジアムで走る。

### ソー・ソチャット (アクションリサーチ担当)

- ① 家庭内でいろいろな問題があり、大変な年だった。五人の子どもを養うのは大変。
- ② 今住んでいる家は、木造の古びた家で、シロアリが発生。家を修復したい。
- ③ 地方の自然に囲まれたところでのんびりする。

### チャン・ナリン (農村開発コーディネーター)

- ① 事務所の引越し、自宅の引越しと、引越しの年だった。
- ② 夜間に通っている大学を卒業すること。
- ③ 木陰でハンモックに揺られて眠る。

### ダン・ソン (門番)

- ① 毎朝運動をする習慣を身につけたら病気にならなくなり、心身共に健康になった。
- ② 住んでいる家が古く、傷みが多い。JVCからお金を借りて修復するのが楽しみ。
- ③ 毎朝三時に起きて読経し、五時にラジオでお経を聞き、毎朝平穏な精神をつくる。

### ブン・ヒエン (門番)

- ① 長男が大学に無事通えていること。
- ② 農業に関心があるが、土地を持っていない。まずは本で果樹の育て方を勉強したい。
- ③ 新聞を読むこと。

### ノップ・パウ (資料センター図書館員)

- ① TRC活動で申請した助成金が初めて獲得できたこと。
- ② 遠く離れた、愛する人に会いたい。
- ③ 友達や家族など、人のことを助けるのが私の幸せ。

### 後川 泰章 (アクションリサーチ担当)

- ① これからJVCの活動に関われること。
- ② トンレサップ湖で投網を上手に使えるよう漁師さんから手ほどきを受けたい。
- ③ トンレサップ湖を丘から一望すること。

※ 04年度からスタッフになった人など、一部の人には①はありません。

# South Africa



上：津山直子  
下：ドウドウ



左：小林恭子  
右：ウィグリー

- 津山直子（現地代表）**
- ① テボホ障害児ホームの子どもたちが、工作やお遊戯に取り組む時のいきいきとした表情と笑顔。干ばつに負けずカラ地区の農民が収穫した立派な有機野菜のおいしさ。
  - ② 年ごとに深刻になるHIV/AIDSに対して自分でできることをもっとやっていきたい。
  - ③ アフリカン・ダンス（超初級）。
- ドウドウジレ・ンカビンデ（アドミニストレーター）**
- ① JVCが支援している地域の人々に会うこと。人々の笑顔を見ると、自分の仕事の人々の役に立っていると実感でき、やりがいを感じる。
  - ② 日本に行ってみよう。南アと日本の違いを確かめたい。
  - ③ 教会のコーラスグループ。
- 小林恭子（農村開発担当）**
- ① 縁あってまたアフリカに。活動の中の人々との出会いで、初心に返って奮闘できた。
  - ② 読もうと思っただけで買った英語の本が部屋で埃をかぶっているので、読破したい。
  - ③ ホームページづくり。
- チーム・ウィグリー（自然農業専門家）**
- ① 農民とスタディーツアーでパングラデシユを訪問。人々と環境の調和が素晴らしい。
  - ② 自然の中で深く修養したい。
  - ③ 海で泳ぐこと。

# Tokyo

- 壽賀一仁（総務担当／ベトナム事業担当）**
- ① 雑穀の収穫や水汲み場など、ベトナムで支援の成果を自分の目で見られたこと。
  - ② JVC二十五周年に向けて皆で夢を語り合い、未来へのビジョンを共有したい。
  - ③ 多摩川。野良猫のゴロウ。
- 高橋清貴（調査研究担当）**
- ① 社会な様々な問題にまじめに向きあおうとする多くの若い人たちと出会えたこと。
  - ② 仕事では、できるだけ現場に出ること。趣味では、自転車通勤率五〇％以上達成。
  - ③ 六〇年代、七〇年代の歌謡曲。ザ・ピーナッツのハーモニーが新鮮。



後列：壽賀、高橋、谷山（枠内）  
前列：磯田、熊岡、清水

- 熊岡路矢（代表）**
- ① カンボジアの選挙モニターで、同僚とカンボット州、タケオ州をまわられたこと。
  - ② 専従で働く最後の年かも。活動に片付けにと、悔いとゴミの少ない一年を送りたい。
  - ③ 西野流呼吸法で元気な！
- 清水俊弘（事務局長）**
- ① バグタッドの芸術家たちにごちそうになったお茶と彼らとの会話が忘れられない。
  - ② 妻が開業するカフェに便乗し



後列：田村、原田、松岡、佐藤  
前列：鈴木、越智、寺西

- 松岡京子（タイ事業担当）**
- ① シンポ準備に泣く私をインターン同期が助けてくれたこと。
  - ② 更なるタイ人化に向け、タイ式マッサージ、タイ古典舞踊にチャレンジ！
  - ③ 健康。
- 佐藤真紀（イラク事業担当）**
- ① 一年経ってイラクに行ったら子どもたちの背が高くなっていたり、大きくなっていった。戦争の中でも元気に成長している。
  - ② 掃除。自宅はパレスチナから帰って来てからほとんどそのままだし、事務所も荷物だらけ。
  - ③ 泥沼…。

- 磯田厚子（副代表）**
- ① 自分がやった仕事ではないが、各現場がプロジェクト評価を今まで以上にきちんとやったこと。評価計画のアドバイスができたことが良かった。
  - ② 現場相互の経験の検証ワークショップと、JVCとしての評価ガイドラインの作成。
  - ③ 自家製の甘酒を毎日。おかげで風邪をひかない。

て、平和教育のライブラリを始めたい。

③ ドラム！

**田村祐子（パレスチナ事業担当）**

- ① ギャグ連発の先輩に（時に寒くなるが…）常に笑いを提供してもらったこと。
- ② アフロ・ラジカル文化をより深く知る。できればギターにも挑戦。
- ③ 風水インテリア。

**原田恭子（南アフリカ事業担当）**

- ① 日本で、南アフリカで、JVCでの活動

**越智美奈（ラオス事業担当）**

- ① 初めて行ったラオスの村の美しさ。カムアン県クワンカイ村の生活は本当に森に支えられていた（虫だけは食べられないと思っただけ）。もう一つ、ベトナム・ソン

**鈴木まり（カンボジア事業担当）**

- ① SARD評価が終わった後のおしゃべり。カンボジア人スタッフから「村人たちから勇気づけられた」などの話を聞いたこと。
- ② クメール文字習得！（何度目のチャレンジ？）地雷や子どものことだけではない、カンボジアの今をより広く伝えていくこと。
- ③ 路地裏探索。鉢植えの植え替え、株分けの準備。

# Thailand

マヌーン・ムーンチュー  
（フィールド・スタッフ）  
①市場の委員会が自分たちで市場を運営できるほどに強くなったこと。  
②JVC終了にあたり、市場委員会が自立できるように活動のレベルを上げる支援をしたい。  
③人を訪ね、人と関わるのが好き。

森本 薫子（インターンシップ・プログラム担当／会計担当／総務担当）

①インターン合宿で修了生が集合。期が違っても、何年たっても、信頼感と安心感とパワーを与えあつた関係に感動！この担当になって本当によかった（涙）。

②マツサージ、気功、タイ語、マニュアル車の運転、フランスパンづくり、インターン人生ゲームづくり、新居で宴会、JVCタイ・テーマソング（振りつけ付き）構想。  
③断食。

倉川 秀明（現地代表／プロジェクト・コーディネーター）

①タイの駐在になったこと。現地のフィールドで働くという長年の望みがかなった。  
②町の消費者と村の生産者を生ごみとたい肥と有機野菜で直接つなげる新プロジェクトの立ち上げ。  
③モータム（イサーンの音楽。体が自然に動きまわります）。

サネー・ウィチャイウォン（プロジェクト相談役）

①町の直売市場が無事一周年。郡や市からも強く協力を得られるようになった。  
②生ごみのたい肥化事業と農民を結ぶ活動をポンの町でもつくっていきたくため、市長や市役所にも働きかけていきたい。  
③ソムナム（パイヤ・サラダ）。

パイロ・モンコンブンルルト  
（プロジェクト・コーディネーター）  
①村の活動が町の市場まで広がり、村の生産物が一般の市場のものよりも質がいいと立証されたこと。  
②食物の価値を通して、都市の中間層と生産者を結びつける活動に焦点を当てたい。  
③都市の中で各階層の人が集まれる健康食品店。



上段：マヌーン、森本  
中央：倉川  
下段：サネー、パイロ

# Palestine

藤屋 リカ（現地調整員）

②四月からJVCのスタッフとしてパレスチナで働き始めます。現地の人たちとの交わりを大切にしながら活動したい。

③油ひかえめパレスチナ料理のレシピづくり。



原 文次郎（現地調整員）

①支援先の病院で出会った子どもたちが元氣になってゆくのをみるのがうれしい。

②言葉がコミュニケーションの基本だと痛感。アラビア語をちゃんと学んでイラクの友人を増やしたい。  
③B級グルメならぬB級自炊！



# Iraq

ラ評価の後、みんなで歌った帰り道。  
②ブナ林めぐり。  
③自転車旅行。

寺西 澄子（コリア事業担当）

①ボランティアメンバーの協力と励まし。韓国まで子どもを引率してくれた人も。  
②東京脱出の機会を増やす。  
③朝寝。

富安 光子（募金担当ボランティア）

②カルチャーセンターでイタリヤのカンツォーネ教室に通い始める。入れ歯のため巻き舌ができないのが悩みの種。  
③七年目になる社交ダンス。  
※①はご遠慮されました。

クリスチャン・デニス（リサーチャー）

①アラビア語とペルシャ語の勉強が六月に終わって、結婚したこと。  
②またアフガニスタンとパキスタンに行きたい。  
③天むすと桜もち。

アイネス・バスカビル（理事／JVCコンサート実行委員会）

①メサイアコンサートが十五年続いたこと。  
②メサイア満席！  
③スキー大すぎ！

石川 朋子（広報／JVCコンサート事務局）

①合唱団員に月一回発行する「歌声通信」を楽しみにしてくださる方がいたこと。  
②チケット完売。「申し訳」さいません。完売いたしました」と言ってみよう。  
③朝ウオーグ（御茶ノ水駅から事務所までの三十分）。

広瀬 哲子（広報担当）

①JVCカレンダーがどどどと売れたこと。ボランティアさんたちに感謝。  
②テニスを基本からやり直したい。体育会系の練習がしたいっす！  
③歯の治療。

細野 純也（会報誌レイアウト／会員担当）

①タイの村人がJVCの活動を評価してくれるのを、自分の耳で聞けたとき。  
②事務所までの自転車通勤を継続させる！  
③ギターの練習（心の師匠は山弦です）。

荻野 洋子（カレンダー事務局）

①「仕事ってチームワーク」と再確認。ホンのちよつと成長できて：ウレシイ！  
②売るぞ、カレンダー！ 思わず買ったやいたくなるようなアイデアを湯船で考えます。

岩間 邦夫（経理／労務担当）

①帳簿残高と現金残高がいつも一致していたこと。  
②スノボ。転ばずに滑れるように（スキーはすでにOK）。



後列：バスカビル（枠内）石川、広瀬  
前列：細野、荻野、岩間、大室（枠内）

大室 直子（会員担当補佐）

①事務所での仕事も、多少なりとも「海外活動の役に立ってるんだ」と感じられたこと。カンボジアで貴重な経験ができたこと。  
②頭と体をフルに使って勉強に打ち込む！（夏からアメリカの大学院に進学します）  
③剣道の稽古&形。

# Laos

## 名村隆行 (現地代表)

①「村の森を守りたいのだがどうしたらいいか」と、村人がはるばるJVC事務所まで足を運んで相談しに来てくれたこと。  
②二十四時間戦えるセクシーな身体をつくる。  
③おしごと。

サイサヌック・ピンパーク (森林保全担当)  
①森について問題が起った時に自分たちで解決しようとするなど、以前より「自分たちの森」に対する意識が高まっている様子が見られたこと。  
②森林や農業についてもう一度勉強したい。  
③村人の生活が良くなるにはどうしたらいいか考えること。

## カムコン・コンチャムナン (ビエンチャンプロジェクト・コーディネーター)

①村人たちと一緒に色々な活動をして、問題が解決できたり、活動を改善できたとき。  
②さらに仕事に邁進。ビエンチャンプロジェクト終了後は、自分でビジネスを始めてもいいかも…。  
③仕事を続ける (実は子育て?)。

## 川合(平岡)千穂 (ビエンチャンプロジェクト担当)

①陸稲を見に行く途中の山道で、村人たちが「あの木の実は…、この木は…」。森は豊かだ！  
②ラオスの北部にはさらにたくさん山々があるという。行きたいなあ。  
③朝の散歩(田んぼの中を歩いています)。

## ブンシン・サナホーン (自然農業担当)

①プロジェクト評価の際、JVCの活動が役に立っていると喜んでくれた村人がいたこと。  
②女の子がほしい。  
③自然の中で飼われた魚や鶏を食べること。

## スーカン・ボンデット (プロジェクト・アシスタント)

①村人と一緒に働き、彼らの生活が少しずつ良くなっていく様子を見られたこと。  
②農村開発についてもっと学びたい。サッカーもやりたい(でも年取ってきたからなあ)。  
③家を建てること。

## グレン・ハント (インターン)

②大学院生なので、たくさん学ぶことをしたい。ラオス語も話せるようになりたい。  
③ラオスの朝食のカオ・ピヤク。



※中村は04年3月で離任

後列：名村、カムコン、ブンシン、スーカン、グレン、サイサヌック  
前列：川合、中村、スーワニー、ウォンパチャン

スーワニー・マントンデー (プロジェクト・アシスタント)  
①働く中で、色々な人と知り合いになれたこと、開発について学んだこと。  
②農業も大事だけど、人の育成も重要。田舎では学校も教材もない所がたくさん。  
③新婚ホヤホヤ♥

## ウォンパチャン・ウォンスパン (経理担当)

①カムアン県のプロジェクト地へ行って村のリアルな生活を見ることができたこと。  
②健康に注意して一生懸命働き、お金を貯めたい。  
③友人と会って、おしゃべりすること。

# Vietnam

## グエン・カック・フン (代表補佐/総務担当)

①集落で村人たちとお酒を飲んだこと。  
②JVCベトナムのかっこいいパンフレットをつくりたい。  
③女性(注)すでに二児のパパですが…。

## チャン・マイン・フン (ソングラ事業担当)

①JVCと事業パートナー(郡行政)との関係が改善されたこと。  
②日本語の勉強(今知っている言葉は、アリガトウとイツテキキマス)。  
③パドミントン。

## ダオ・マイン・チュオン (ポランティア)

①JVCで働いたこと(何て謙虚なのでしょう!)  
②僕はまだ恋をしたことがないので、今年こそカノジヨが欲しい。  
③英語の勉強。

## 西愛子 (現地代表/ソングラ事業担当)

①フモンの女性と女性の通訳を通じて話ができたと。同じ集落の男性が通訳をやるとかわりに答えてしまい、女性と話した気がしなかった。  
②フモンの民謡を一曲覚えたい。  
③猿とのコミュニケーション。

## 田村崇史 (総務担当)

①お酒が弱いことを村人や役人によくわかってもらえたこと。  
②阪神優勝の勢いを見習って(?)、ベトナム人の「人生のパートナー」を見つけた。  
③干し柿。

## 伊能まゆ (ホアビン事業担当)

①肉体的にも精神的にも大変な思いをして取り組んだプロジェクト評価会議が成功をおさめたこと。

# Afghanistan



イクに挑戦!

## 本間一 (現地調整員)

①カブールへのバスで、決して裕福とは思えない母娘から自家製クッキーをもらった。  
②カブール川でマスを釣上げ、魚はフライ料理しか知らないアフガン人に、塩焼きの美味しさを紹介したい。  
③リキシャ (三輪オートタクシー)でヒッチハイクに挑戦!



左から：フン(グエン)、フン(チャン)、チュオン、西、田村、伊能

フン大&さくら(文鳥・癒し担当)

②痩せる!(お酒を控えて運動します)  
③ムオン民族の言葉。



## 南アフリカ

### テボホ障害児ホーム でのボランティア

山口<sup>きよこ</sup>聖子

JVCが支援するテボホ障害児ホーム（以下テボホ）で、七カ月にわたりボランティアとして活動してきました。私の役割は、これまで子どもたちへの日常の世話で精一杯だったテボホの活動に、子どもたちが学び、トレーニングできる機会をつくっていくというものです。

工作、音楽、運動、数や言葉遊び、粘土などいろいろな活動を通して、子どもたちが学び、また身体の機能を回復していくようにカリキュラムや教材をつくってきました。現在二十人前後の子どもたちが参加しています。

一緒に担当するのはエミリーとビクトリア。エミリーはテボホで働く五年目のベテランで、子どもたち一人一人

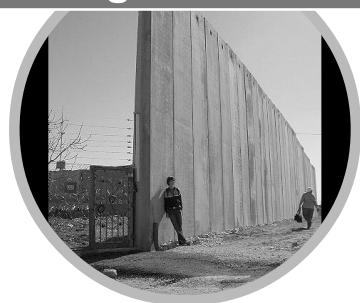
の状況をとてよく把握しています。お話や歌が得意で、いつもクラスを楽しく、活気づけてくれます。四児の母であるビクトリアは、あまり動くことができない子どもや寝たきりの子どもへのケアやリハビリをいつも献身的に行なっています。

私たちに共通する喜びは、子どもたちが楽しく学んだりトレーニングに励む姿を見ること、そして最大の喜びは、さまざまな活動から生じてくる子どもたちの進歩を見ることです。知的障害を持つ彼らの独特の世界を理解することは簡単ではありませんが、忍耐強くそれぞれの子どもたちに合った接し方を見つけていくと、子どもたちの心少しずつ開いていきます。そこに、スタッフと子どもたちとの楽しいコミュニケーションが生まれてきます。

これからは他の施設の見学や研修への参加を通して、新しいアイデアを取り入れていこうと、エミリーやビクトリアと共に希望しています。私の活動は三月で終了しますが、いつの日かテボホを訪れ、ホームと子どもたちの成長を見ることを楽しみにしています。

（ボランティア）

## message from the field



## プロジェクトの現場から

写真：「壁」。2003年11月、ヨルダン川西岸のカルキリヤにて撮影。

## パレスチナ

### 「壁」と「橋」

小林 和香子

〇二年春、イスラエルは「セキュリティフェンス」（通称「壁」）の建設を決定した。現在、その工事が急ピッチで進められている。

「壁」はパレスチナ領土に深く食い込み、パレスチナとイスラエルを分断するだけでなく、パレスチナの村や家族をも分断し、病院や学校などの社会サービスとも切り離していく。

「壁」建設の理由は、パレスチナ過激派による「テロ」からイスラエル国民を守るためという。イスラエルは圧倒的軍事力でパレスチナの「テロ組織」撲滅作戦を展開しているが、抵抗は止まらない。パレスチナはイスラエルが占領を止め交渉を始めない限り、「テロ」を抑制することはできないとしている。

この「壁」の与える影響が国

際人道法・人権規約に違反するとして、国連は国際司法裁判所に勧告的意見を求めている。国際法上問題となるのは、パレスチナという地域の法的地位だ。イスラエルがパレスチナで行なっている行為は「占領」なのか。ジュネーブ条約は適用されるのか。オスロ合意と呼ばれる一連の暫定合意でイスラエルに認められたパレスチナの一部地域での「治安権限」は、この「壁」建設をも認めるものなのか。勧告が出されるまでにはまだしばらく時間がかかりそうだ。

国際司法裁判所へのパレスチナ代表団の一員であるタラジ氏が語った言葉が印象に残る。「今私たちに必要なのは（二つの民族を結ぶ）橋なのに、イスラエルは壁をつくっている」。

「壁」は、パレスチナの人々の生活をより困難なものにするだけではなく、二つの民族の対話をも困難にしている。いかなる紛争であっても、対立する民族の相互不信が払拭されないと、平和は成立しないし和解はあり得ない。「壁」を「橋」につくり替えるにはどうすればよいのか。当事者はもちろん国際社会の叡知が試されている。

（前パレスチナ事務所代表）

## 資金は、個人・民間団体・政府から。

JVCの活動資金は、ここ数年およそ3億円弱となっています。内訳は、以下のとおりです。

### ①個人の方からの支援

皆さまからの会費や募金、それからJVC国際協力カレンダーの販売収益などです。

### ②団体からの助成金や寄付金

さまざまな助成財団や労働組合、宗教団体からの寄付、他に郵政省の「国際ボランティア貯金」からの助成もあります。

### ③日本政府からの補助金

外務省本省から、あるいは活動地の日本大使館からの補助もあります。

その他には、スタッフの講演料などもあります。

近年のNGOの数の増加に伴い、政府補助金のJVCへの補助額は減少しています。郵政省の国際ボランティア貯金をはじめとする助成団体からの資金も、運用益の減少などもあってその額は減少する傾向にあります。同時に個人の方々からの募金なども徐々に減ってきており、全体としては必要な活動をスムーズに続けられるかどうか危ういといった状況です。スタッフ一同危機感を持っており、どのように必要な財源を確保するかが、重要な課題となっています。



## 特に大切なのが、会費・募金です。

この中で特に重要な意味を持つのが、会費・募金です。これはプロジェクトの財源を安定的に支えていると同時に、多くの方から活動に賛同をいただいていることの証です。また、緊急事態が起こった際に行なう緊急活動（例えばアフガニスタンやイラクへの初期の救援活動）など、臨機応変に支援を行なうための財源としても重要です。

なおJVCでは皆さまの了解を得て、募金の20%以下を管理費とし、国内事務所経費や通信費、人件費などに使わせていただいています。

## 『認定NPO法人』格取得に向けて。

JVCは現在『認定NPO法人』格の申請準備を進めています。認定NPO法人として認定されると、皆さまの確定申告の際に、JVCへの寄付金を所得控除することができます。認定のためには、寄付金が総収入の1/3を占めていることが条件になります。JVCがこれからも十分な活動を続けていけるよう、ご支援をお願いいたします。

## JVCサポート募金で活動を支えてください

JVCサポート募金は、毎月1,000円がご指定の金融機関口座から自動引き落としになる新しい募金の形です。郵便局へ出向く必要はありません。月々1,000円なので、負担感も少なく、継続的に海外での国際協力活動に協力していただくことができます。ご検討くださいますよう、よろしくごお願いいたします。詳しくは、経理担当の岩間までお問い合わせください。



## そこが聞きたい

その14



## JVC、その活動の財源は？

JVCの活動の資金はどこから得ているのですか？ 会費、募金、その他には？ 企業などからの寄付もあるのですか？

## スタッフのひとりごと

### Working at JVC

リサーチャー クリスチャン・デニス

■アラビア語とペルシャ語を使いこなす中東専門家のクリスさん(イギリス出身)は、昨年9月から東京事務所に勤務しています。温泉に行けばおまんじゅうを買ってきてくれたりと、すっかり日本の暮らしになじんでいるクリスさんに、最近取り組んでいる仕事について聞いてみました。(編集部)

私はJVCで、アフガニスタンやイラク、パレスチナのプロジェクトに携わっています。イスラエルがパレスチナに建設している「壁」や、イラクの劣化ウラン、またアフガニスタンの武装解除などについて、最新の動きをリサーチしています。

今年1月、アフガニスタンを訪問しました。JVCや他のNGOのアフガン人スタッフと話したところ、彼らが感じているストレスはとても大きく、これから選挙までの6ヶ月をとっても心

配しているようです。行動の自由が制限され、法の力も都市以外には及ばないアフガニスタン。この地で生きる私の同僚や友人は常に大きな問題に直面し、それから逃れることはできないのです。

日本に戻ってから、私たちは「日本アフガンNGOネットワーク(JANN)」というグループを立ち上げました。最新のアフガン情報を日本のNGOへ伝えるため、毎週レポートを作成しています。まだ始まったばかりです



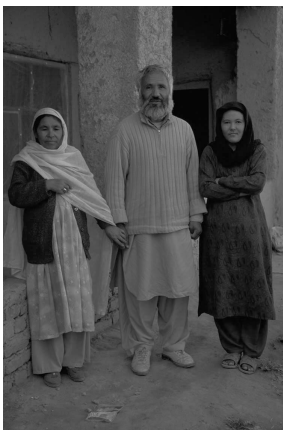
イラスト/かじの倫子

が、日本のNGOがアフガニスタンの状況をより深く理解するための重要なツールになればと期待しています。

JVCで働いているおかげで、とてもチャレンジングでやりがいのある仕事を経験しています。JVCの結束力はとても強いと思います。特に、昼休みにお弁当を食べながら皆で旅行の体験や仕事の話をしている時にそう感じますね。

## 映画『ヤカオランの春 ~あるアフガン難民の生涯~』

## みるよむきく



(撮影・川崎けい子)

川崎けい子・中津義人 共同監督 85分

難民キャンプの学校で地理と歴史を教えているアリ・アクバルさんは、ある日、子どもたちに自分自身の半生を語り始めました。彼がアフガニスタン社会

うした難民の一人です。アリ・アクバルさん(一九五四年生まれ)は、〇一年一月にヤカオランを脱出し、パキスタンに逃れました。九・一一以前パキスタンには二百万人以上のアフガン難民が居住していましたが、そのほとんどは内戦によって祖国を追われた人々でした。アリ・アクバルさんも、こ

ドキュメンタリー映画『ヤカオランの春』あるアフガン難民の生涯』は、アフガニスタンのパルミヤン県ヤカオランを故郷とする難民夫婦であるアリ・アクバルさんとタジワールさんの目を通して、アフガニスタンの現代史を描いたものです。

アリ・アクバルさんの語る歴史は、アフガニスタンの歴史の一面面です。しかし、確かに存在しながら、これまで無視されてきた断面でもあります。アフガニスタンで何世紀にもわたって差別され続けてきた少数民族ハザラの一人である彼の語る歴史から、人間の幸せ、平等、女性の権利、教育のあり方、国家と個人の関係など、まだ解決の見つからない世界の諸問題について、何かが見えるかもしれないという思いで、この映画を制作しました。

今後各地で上映会がありますので、ぜひご鑑賞ください。また、自主上映会のために作品を有料貸出していますので、お気軽にお問い合わせください。

(写真家・映像ディレクター) 川崎けい子

この映画に関するお問い合わせ

『ヤカオランの春』制作の会

TEL&FAX: 〇三-三八七-〇五三九

URL: <http://www.007japsonetnet.jp/movie/>

《開発協力》

THAILAND

タイ

地域の市場づくり

自立した生活を取り戻すために、村人自身による「地域の市場」づくりをサポートしている。その中心メンバーでもある市場委員会の人たちが二月初めにJVCラオスの活動地を訪れて、村人らと交流した。豊かな自然が残るラオスの村で、その自然を壊すような農業をしてはならないと、かつてのタイの経験を話した。同時に、現在タイで自分たちが自然を取り戻すような農業をし、地域の市場を立ち上げたことに自信を深めた。(倉川)

農村で学ぶインターンシップ

タイの農村に一年間滞在し、開発、NGO活動、農的生活の価値について学ぶ機会を提供する本プログラムは、これまでに九期、二十九名を受け入れた。二月に那須(のキャンプ場)にて修了生の合宿を行ない、近況を報告しあった。自然農業や伝統医療など、様々な方向を目指す彼らのネットワークを深めていきたい。(森本)

CAMBODIA

カンボジア

持続的農業と農村開発(SARD)

活動開始から十一年目を迎えるSARDプロジェクトであるが、活動地の農民の間では身近な問題について話しあえるような雰囲気が出てきた。女性相互扶助グループでは毎月ミーティングを開催しているが、そこで家族計画(避妊治療)の話題が取り上げられた。詳しく知りたいという要望が多く寄せられたため、郡病院と協力して勉強会を開催した。(山崎)

資料・情報センター(TRC)

TRCが保有する持続的農業と農村開発に関する資料は、本やビデオ、ポスターなど合計で四千五百点を超えた。〇三年に貸し出した本は千四百冊以上、新規利用者も二百三人と、昨年より増加している。また、百本以上あるビデオは湿気や高温に弱く保存が難しいため、CDへのコピーを開始した。(山崎)

技術学校

自動車修理・溶接を学ぶ職業訓練校・整備工場。プロンペン校修理コース二年生は七月卒業を控え、整備工場での実地研修を始めた。同校は八五年来、カンボジア公共事業運輸省と提携

して土地を借りているが、ある一企業がカンボジア閣僚評議会への学校移転要請を強めているため、移転回避ないし移転補償条件整備の交渉が続いている。シアヌークビル校は運輸局長の指導のもと、自己採算をめざして経営改善・営業努力を続けている。(米倉)

調査研究・政策提言

トンレサップ湖の漁業共同体による自然資源管理を阻む問題のフィールド調査を、NGOのCEDACと「るしな」と協力し行なった。漁業共同体運営に関する教本は三月に完成する。土地調査は、外部向けに一年目の調査の結果報告を行ない、二年目の調査計画を立てた。

JICA理事長のカンボジア訪問に際し、他の日本NGO有志と共に適正技術や持続性重視をメッセージとして伝えた。(米倉)

LAOS

ラオス

自然農業と農村開発(ビエンチャン)

現在、最終評価のための準備作業に入っている。三村で詳細なインタビューを村人に行なっている。インタビューを通じて、これまでなかなかつめな

かったことなどがわかってきた。もうすぐ陸稲を植える季節だ。畑は何時間もかかる山にあり、農作業の間は村人たちの姿は村には見えなくなる。村人たちが忙しくなる前に終わらせるべく、インタビューは急ピッチで進んでいる。(川倉)

森林保全と自然農業(カムアン)

自分たちの森林をいかにして守るかの実例を学ぶために、二月下旬、村人、役人とともにタイを訪問した。問題解決の方法について当事者同士で交流を深めることができた。複合農業を推進するための水環境の整備が進んでいる。利便性や家庭菜園の普及の観点から四カ所を選び、井戸の修復に着手した。村人が砂利と労働力を、JVCがセメントと鉄筋を提供する。乾季の間に完成すべく、村人総出で作業が進んでいる。(中村)

VIETNAM

ベトナム

ハノイ事務所

三月十二日、ハノイ訪問中のJICA理事長緒方貞子氏に面談する機会を頂いた。過密スケジュールの中、わずかな時間でJVCベトナムの歴史や現在の

プロジェクトを紹介したところ、「星野さんの始められた団体ですね」と。貴重な機会ではあったが、もう少し意見交換ができる場であつたらという思いが残った。(西)

農村開発(ホアビン)

参加型農村開発プロジェクトを実施しているホアビン省タンラック郡内四村で、地域の人々が森林資源をどのように利用しているのかを把握するための調査を実施した。インタビューの結果、隣接している村でも森林資源の利用方法が異なっている点や、森林資源が住民の生活においてどの程度重要なのか、などについて把握することができた。この結果を今後の活動にかす予定である。(伊能)

自然資源管理(ソンラ)

九九年より住民による自然資源管理の活動を支援しているコマ村の三集落で、二月に女性を対象とした栄養改善、母子保健などに関するシエンダーワークショップを開催した。多くのモン民族女性はベトナム語の理解が不十分なため、女性のモン語通訳を起用し絵カードも活用するなど、コミュニケーションの改善を図った。話しあいを通じて、野菜や果物が健康にもたらす効用が十分に理解されていないことが確認された。(田村)



## 南アフリカ

SOUTH AFRICA

### 農村開発

東ケープ州カララ地区で、〇一年より環境保全型農業の研修を行なっている。三月に行なった活動地八村のモニタリングでは、七十九名の環境保全型農業実践者の中で、十五名の畑が篤農家の基準を満たし、成果が感じられた。厳しい干ばつの影響にもかかわらず、実践者の畑では作物が育ち、収穫されている。(原田)

### 子どもの教育支援

テボホ障害児ホームはジョハネスバーク市オレンジファーム地区にある唯一の障害児施設だ。JVCでは、二〇〇〇年から施設の改善や子どもたちのリハビリなどの支援を行なってきた。引き続きボランティアの山口がスタッフと共に子どもたちへのトレーニングや教材づくりを行なっている。

インクルレコ小中学校は、

ジョハネスバーク市郊外で地域住民が始めた自主学校。JVCは、〇一年から施設の改善や先生のトレーニングなどの支援を行なってきた。〇三年八月に公立学校として政府から認められ、また十二月にJVC支援に

よる中学校校舎が完成した。これに伴い、JVCはインクルレコ小中学校の支援を終了する。(原田)

### 調査研究・政策提言

ネットワークを通じて、日本の食糧増産援助(2KR)の問題に対する提言活動を行なっている。三月に行なわれた外務省との意見交換会では、2KRの代替案としてカラで行なう農村開発の活動を紹介した。南アフリカで深刻な問題になっているHIV/AIDSに関しては、引き続きHIV感染者グループのつくるビーズバッジの購入・販売を通して、グループの支援と日本へのアピールを行なった。(原田)

## 《緊急対応》

AFGHANISTAN

## アフガニスタン

### 東部地域医療支援

・地方クリニック支援/活動地の治安が沈静化したのを契機に、当面六カ月間の緊急援助活動として保健省管轄のカスクナール郡で唯一のクリニックへ、器材や薬品の提供を開始する。(本間)

### ・女性医療従事者養成コース/

ナンガハル県の女性医療従事者養成コースは、各NGOの支援に対する保健省の最終方針が相変わらず決定されないため、JVCの支援もまだ足踏み状態である。(本間)

### ・伝統産婆の職能向上研修/

ナンガハル県の三カ所で、地域に根ざした伝統産婆の訓練とフォローアップを、約四十名に対して行ない、終了している。残り二カ所の選定と計画を母子保健局と協議中。(本間)

### シギ高等女学校支援

ナンガハル県シギ村の女子学校の校舎増設が、住民代表の尽力で県教育局に承認される見通しがつき、現在基本設計の計画づくりが進んでいる。(本間)

### 政策提言

本年後半の選挙に向けた武装解除や軍隊による復興援助を、引き続き他のNGOと共同でモニターし、アフガニスタンの住民の平和に関わる問題に対し積極的に提言していく。(本間)

IRAQ

## イラク

### 医療支援

昨年八月に開始した、小児ガン・白血病専門病棟へ薬品や機

材を提供する緊急プロジェクトを継続中。一月末はイード(犠牲祭)休暇を前にして不足していた点滴機材と輸血キットを提供した。バグダッドの二病院のほか、バスラの病院も支援している。戦争開始時から一年になるが、薬品や機材の不足に大幅な改善が見られないので、今後は状況の抜本的改善に向けてイラク保健省など当局への働きかけを強めてゆく予定。(原)

PALESTINE

## パレスチナ

### 幼稚園児栄養改善支援

二月十七日から三日間、ガザの幼稚園を視察した。牛乳、ビスケットも滞りなく配布され、九月の視察時に比べ子どもたちの体重は順調に増え、表情も豊かになっていった。手洗い・うがいなどの教育も普及中。(小林)

### 難民キャンプ子ども文化支援

一月に Beit Djibrin 文化センターを訪問した。周辺で「壁」建設が進み、ここでも確実に生活が悪化していることを感じた。このような状況でも何とか子どもたちに希望を持ち続けて欲しいと献身的に働く地元の方々たちに感銘を受けた。(田村)

KOREA

## コリア

### 東海岸への食糧支援

食糧事情の厳しくなる春先にあわせて、「KOREA」こともキャンペーンとして三月末に現地を訪問した。東海岸に位置する江原道元山市と安邊郡の子ども施設(託児所、幼稚園、育児院)に二十トンの米を配布し、状況を視察した。(寺西)

## 《国内活動》

### 開発教育

一月末、水元青年の家で「カンボジアの箱」学習会を一泊二日で開催した。「箱」とはJVCのオリジナル開発教育教材で、その国の社会や文化を知るための物品がつまっている。

開発教育ボランティアチームを中心に約半年間かけて「カンボジアの箱」を改良。そのお披露目を兼ねて実際の使い方を学んだ。参加者は教員や主婦など約十五名。中学生を対象とした授業案を以下の二つのテーマで作成した。①地雷などの内戦の傷跡から平和の大切さ、②開発を通して日本との関わり。参加者には概ね好評だった。(中山)

新たなパートナーの

広がりを

〈東京〉 中島千秋

私には、忘れられない言葉がある。あるフォーラムで、中央アジアの外交官が、「日本が機械をくれるのはうれしい。しかし本当は、自分たちでその機械をつくれるようになるたいんだ」と発言した。出来上がったものではなく、それをつくる技術の習得による「自立」が、彼らの願いである。

昨年の四月、私は、友達に誘われて、JVCのオリエンテーションに参加するために初めて丸幸ビルを訪れた。その時の担当者の方の説明に、私は心を動かされた。彼女は、JVCは単にモノを与えるの



国内ひろば

JVC network

んなパートナーにも、オープンな姿勢を持つている事を実感させてくれる。

こういった姿勢が、各方面からの信頼を勝ち得てきたのだと思う。以前、ユニセフにアフリカへの援助の件で電話で問いあわせた時のことだ。「JVC会員ですが」と言ったら「あ、JVCさんですか」と一気に信用してくれて、たくさん親切に教えてもらった。その時、JVCの今までの実績の重みを感じた。

ではなく、「自立」を助けるNGOであること、そして、その組織はフラットであると説明してくれた。

あれから約一年、確かにそうだと思う。私はアフリカボランティアチームに属しているが、南アフリカでの農業支援で、実に地道な努力がなされている事を知った。自給自足への道を、農法を工夫することでも開拓している。

また、ボランティアチームで、新参者も恐れる事なく意見を言い、ベテランが静かに耳を傾けるのは、JVCが、ど

しかし、一つ心配な事がある。最近、NGOの「緑のサヘル」が、資金不足のために西アフリカからの撤退を余儀なくされた。JVCは、大丈夫だろうか。募金や寄付だけに頼るのでは、経済状況の影響を受けやすい。JVCも、「自立」への道を探る時期に来ているのではないだろうか。資金的な面で強化というだけではなく、例えば、政府や企業と（一線を引くつも）NGOの視点をその活動に反映させるためにパートナーシップを組むといったような活動形態への模索も、JVCに課せられた役割であるように思う。

イラク攻撃から1年  
ピースパレードに参加して

JVC理事 今井 高樹

「イラク戦争」開始から一年にあたる三月二十日、イラク占領に反対し平和を求めめるアクションが世界各地で行なわれました。東京でも、雨の中、市民団体などが呼びかけた日比谷公園での集会とパレードに約三万人が参加しました。

主催者側のスピーチ、沖繩から駆けつけた喜納昌吉さんの熱唱に続いて、JVC熊岡代表が登場。『アメリカの国益のための戦争』と言われて

いるが、今のイラクの状況は『アメリカの国益』にすらなっていない。復興支援の名を借りた復興ビジネスで一部の人間だけが利益を得ている」という指摘が強く印象に残りました。

マスコミ報道からは、イラクの人々にとって「仕事がない」ことが死活問題であると伝わってきます。しかし自衛隊の「復興支援」は現地の人々を雇用して行なうものではなく、今後日本が拠出する巨額の援助(四年間で五十億ドル・原資は私たちの税金)にしても、復興ビジネスを支えるものにならないとの保障はありません。

既に自衛隊が派遣されてサマワでの活動が始まっている現在(四月初旬)、自衛隊派遣に違和感を覚えながらも「復興支援は必要だから」と考

えている人が私の周りにも多くいます。しかし、イラクの人々と占領軍との衝突は日ごと激しさを増しています。アメリカを中心とする占領が、何故これほどまでイラクの人々の反感を買っているのか、この占領政策に手を貸す形で行なわれている日本の復興支援とは何なのか、私たちは嫌でも考えざるを得ない状況に立たされています。

## 募金にご協力ありがとうございます

JVCの活動は、皆さまの募金に支えられています。

### ① JVC 募金

JVCの各国での活動に役立てられます。募金先をご指定いただくこともできます。

口座番号：00190-9-27495

加入者名：JVC 東京事務所

1月計 **3,013,874 円**

2月計 **1,187,980 円**

	1月	2月
無指定	426,444 円	539,016 円
タイ	15,000 円	3,000 円
カンボジア	15,000 円	3,000 円
ラオス	15,000 円	5,000 円
ベトナム	15,000 円	0 円
南アフリカ	25,000 円	5,000 円
パレスチナ	28,000 円	18,468 円
アフガニスタン	563,695 円	16,877 円
北朝鮮	55,000 円	23,000 円
イラク	1,855,735 円	574,619 円

### ② 犬養道子「みどり一本」募金

この募金は JVC 活動地での植林プロジェクトに使われます。

口座番号：00100-8-212497

加入者名：犬養道子「みどり一本」

1月計 **312,200 円 / 36 件**

2月計 **212,600 円 / 39 件**

### ③ JVC サポート募金

銀行や郵便局の口座からの自動引き落としやクレジットカードを利用する手軽な募金方法です。

1月計 **229,166 円 / 87 件**

2月計 **152,000 円 / 79 件**

## 編集後記

最近、会議にもいろいろスタイルがあるというニュースを見ました。「立ったまま会議」で早く終わらせるようにしたり、「和室掘りごたつ会議」で斬新なアイデアをひねったり。JVCのミーティングはスタイルこそ椅子と机でごく普通ですが、どんな立場のスタッフでも思う存分自分の意見を言えるという点では、なかなか自慢できるのかもしれない。会員の皆さまも、「Trial & Error」を読んで感じた意見や提案を、ぜひお聞かせください。(ひ)

## 新スタッフ紹介

藤屋リカ(ふじやりか)

パレスチナ現地調整員



約十年前に保健所での仕事を辞めて、NGOの職員としてパレスチナでの母子保健活動に関わりました。

七年間パレスチナで過ごし

た後、日本の大学院で国際地域保健学を勉強することで、現場とは少し異なる視点から同じ問題について学ぶことができました。

〇二年四月にJVCのパレスチナ緊急人道支援活動に参加、その後はパレスチナボランティアチームに「出入り」しています。今回、JVCのスタッフとして気持ちも新たにパレスチナに赴きたいと思っています。

## 会員担当インターン、募集しています。

JVC東京事務所の仕事の手伝いながら、NGOの視点や問題意識を学んでいただくことを目的とした東京事務所インターン制度。今年の会員担当インターンは、市民社会創造ファンド様のインターンシップ・プログラムの枠で募集することになりました。応募・問い合わせなどは以下までお願いいたします。

受入期間  
2004年6月  
～2005年6月

### 市民社会創造ファンド

URL : <http://www.civalfund.org> TEL : 03-5220-2101



JVCの活動は、皆さまからの募金に支えられています。この冬は、多くの方から一千七百万円を超えるご支援をいただきました。

お寄せいただいた募金は、イラクでの医療支援をはじめ、アジア・中東・アフリカでの活動に有益に使わせていただきます。

冬募金にご協力くださり、  
ありがとうございます。

### 2003年度 冬募金集計

**¥17,512,690 / 2,236 名**

[ 20%以内を管理費とさせていただきます。2002年度実績：17% ]

# 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

## 第5回 JVC 会員総会のお知らせ

日時：2004年6月12日（土）10:00～13:00

場所：ECOとしま 生活産業プラザ 多目的ホール  
JR / 地下鉄池袋駅東口より徒歩7分

- 議案：1) 2003年度活動報告および決算報告  
2) 2004年度活動計画および予算案  
3) 役員改選



午後（14:00～16:00）、分科会・交流会「JVCのつどい」を企画しておりますので、ぜひご参加ください。  
※参加される場合は昼食をご持参ください。詳細は同封の別紙案内書をごらんください。



日本国際ボランティアセンター（Japan International Volunteer Center）は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVCの活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人々に協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVCに参加し、活動を継続してきました。JVCはボランティアという言葉で、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

### ■ JVC では会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年7回この会報をお届けします。

◎一般会員 10,000円

◎学生会員 5,000円

◎団体会員 30,000円

※それぞれに正会員と賛助会員があります。

入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し込み、住所変更などはこちら（会員担当）へ。

hosono@jca.apc.org

会員数（4月5日現在）合計 1,476人  
（正会員 605人 賛助会員 871人）

### ■ オリエンテーション(説明会)へどうぞ。

JVCの活動内容をご紹介します。お気軽にご参加ください。（無料・予約不要です）

第1月曜日 午後7:00～8:30

第2・第4土曜日 午後2:00～3:30

※会場はJVC東京事務所です。

### ■ E-mail

jvc@jca.apc.org

### ■ URL (ホームページ)

<http://www1.jca.apc.org/jvc/>

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。  
※本誌は再生紙を使用しています。